

(別紙2)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年5月7日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3970800060
法人名	社会福祉法人 尽心会
事業所名	グループホーム ゆうゆうホーム
所在地	〒787-0321 高知県土佐清水市浜町1-23
自己評価作成日	平成21年11月24日
評価結果市町村受理日	平成22年5月21日

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3970800060&amp;SCD=320">http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3970800060&amp;SCD=320</a>
-------------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームでは、ご利用者を家族同様に考え、「ゆうゆうホーム同居人心得（＝職員心得）」とする10項目からなる理念に沿って、レクリエーションや買物など、その日の希望に応じて「ゆっくり・ゆったり」楽しい時間を過ごしていただくことを心がけ、ご利用者中心の支援に取り組んでいます。また、地域と共に支え合っていくため、地域の方々との関わりを大切にし、利用者の見守り支援、災害時の協力の依頼するなど、地域の一員としての交流していくように努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市街地に近く、利便性に恵まれた環境の中にある。利用者職員は事業所の理念に沿って「ゆっくり・ゆったり」穏やかに一日を過ごしている。散歩や買物時には、近隣の住民の方と挨拶を交わし、住民からも野菜や魚の差し入れがあったり、仕事帰りに毎日立ち寄ってくれるなど、地域に溶け込み交流している。また、避難訓練への地域住民の参加の依頼や、運営推進会議の名称を「ゆうゆうホームを楽しく元気にする会」とする提案を受けたり、自由に外出したい利用者の見守り支援を地域住民から協力を得るなど、今後も、地域に根ざした事業所としての発展が期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b></p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>入居者・職員心得として理念を作成し、日々意識付けをしながら行動しています。</p>	<p>職員の同居人心得（10項目）で構成する理念は具体的でわかりやすく、職員は日々の業務の中で常に振り返り、利用者本位のケアにつなげている。</p>	
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b></p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事への参加や、作業等があれば職員も協力するようにしています。</p>	<p>地域の行事に招かれたり、参加するなどして交流している。また、日常生活の中で近隣の方から野菜の差し入れや仕事帰りに立ち寄ってくれるなど、関係を築いている。</p>	<p>隣近所と交流しやすい恵まれた立地条件があるので、今後は事業所から地域に出かけていく活動を検討し、より一層地域との関係を深めることを期待したい。</p>
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b></p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域とのつながりは徐々に出来てきつつあるも、そういった地域貢献は出来ていないのが現状です。</p>	/	
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取組み</b></p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の内容や意見等は定例職員会や記録を確認し、必要があれば改善策を検討しています。</p>	<p>事業所から利用者の状況や運営状況を報告し、参加委員から意見、提案が出され、会議の通称を「ゆうゆうホームを楽しく元気にする会」として利用者、家族が気軽に参加できる工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b></p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>定期的ではないが、必要に応じて事業所の報告や、運営に関して質問したりしています。</p>	<p>入退居者の状況を報告したり、運営について相談している。また、研修情報等を得るなど、協力関係ができています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>研修に参加し、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関は夜間以外は施錠せず、センサーを設置しているが、これに頼ることなく利用者の動向はさりげなく見守り支援をしています。</p>	<p>身体拘束に関する研修を受け、伝達講習を行い、職員に徹底している。一人ひとりの行動や希望を把握し、毎日外出したい利用者は自由に外出ができるよう支援している。リスクに関して家族との話し合いもできており、地域住民の見守りの協力も得られている。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修等へ職員は交代で参加しています。また、職員会でも報告の場を作り、職員間で良く話し合っています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会等で制度の理解はしていますが、現在、該当事例はありません。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に本人、家族に契約内容等について説明し、理解と納得を得ています。また入居後も不安な点等が生じた場合には、その都度対応して安心できるように努めています。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族代表の意見を聞いたり、日常生活の中で入居者や家族の意見、要望等を聞き、ホーム内で共有し、必要に応じて法人事務局に伝え、運営につなげるようにしています。	家族が県外や市外の方が多いため家族会は設置されていない。家族の来訪時には必ず時間をとり話し合い、また、家庭を訪問している。県外や市外の家族には、近況報告などで情報の共有に努め、電話等で意見を聞いている。	家族は、身内が世話になっていることから意見等を言い出し難いことを理解し、利用者や家族から意見を引き出す機会の検討や工夫を期待したい。
11	7	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会を開催し、その際に意見や要望等を聞くようにしています。また、日常の業務の中で、その都度聞くようにしています。職員ももストレスを溜めないよう取り組んでいます。	毎月の職員会や日々の会話の中で、職員の意見や提案を聞くようにしている。また、法人としての意見の聞き取り等の体制もできしており、運営面の向上につなげている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の要望等を管理者が聞いたり、直接法人事務局に言える環境です。また、職員会に法人統括の参加があり、直接要望を伝えています。代表者は現状把握を心がけ、よく話も聞いてくれます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修会へ参加が出来るようにしています。また、法人の事業所間での交換研修にも取り組んでいます。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を概ね2カ月に1回開催し、各事業所での取り組みや問題点などを共有し、解決できるよう取り組んでいます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には必ず面談を数回に分けて行います。また、入居後も日常生活の中での聞き取り、管理者も個別に面談が出来るように時間を作っています。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、家族から利用者の生活歴等を確認するとともに、家族の不安や要望等を時間をかけて聞き取り、信頼関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で本人、家族の要望や状態の把握に努め、必要としている支援や対応の把握に努めています。入居後も状況に応じて、その都度対応を考えています。		
18		<b>○本人と共に過ごし支え合う関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員心得（運営理念）にもあげているように生活を共有することを心掛けています。職員が気付かされる事、学ぶ事も多くあります。		
19		<b>○本人と共に支え合う家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加など声をかけ、全員とはいきませんが、家族と利用者が一緒に過ごせる環境を目指しています。来訪された家族とは職員は誰もが、気軽に話せるようにしています。		
20	8	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別で行ける入居者は現在でも自由に行けるようにしています。また、支援が必要な入居者は時間がとれる時に個別外出を行い、地域や旧友、他のサービス機関にも行くなど交流をしています。	散歩や買い物時に知人に出会うことが多く、立ち話をするのが日常的にできている。また、出身地や知人を訪れたり、以前入所していた施設に立ち寄るなど、これまでの関係を継続する支援をしている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の馴染みの関係は出来ていると思います。職員の代わりに声を掛け合っていたり、互いに心配される事も見られます。利用者が孤立しないよう職員は配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も、ご家族から度々差し入れがあったり、外出先では必ず挨拶をしています。特に、支援やフォローといったケースは出ていませんが、必要があれば支援していきます。</p>		
<p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活を通じて入居者の意向を常に聞き取るようにしています。意思表示が困難な場合は、日常の行動や家族から聞くなどして、入居者本位の生活を考えます。</p>	<p>日常生活の中で、職員は常に利用者向き合い、会話や行動、表情などから、利用者が今したいことを個別に汲み取るよう努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に本人、家族、関係機関等より生活歴などの情報収集を行い、これまでの生活に近い環境を考えています。また、入居されてからも日常生活の中で会話や状態の変化などにも注目し把握しています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活のリズムや行動パターンに注目し、記録を取り、把握に努めています。日々の変化についても記録し状態の変化に気をつけています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	出来るだけ本人、家族からの意見も聞くようにしているが、あまり意見等がなく、介護記録や職員の日々の気づきをもとに、アセスメントを行い、職員会で介護計画を検討しています。家族から意見が言えるような環境にしていける事も重要と考えています。	利用者や家族からの意見や職員の気づきを踏まえて、職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を立てている。なお、家族からの意見や希望が少ないために意向が十分に活かされていない計画も見受けられる。	利用者を家族とともに支え合いながらサービスを提供していくことが大切であり、県外・市外在住の家族が多いながらも、利用者の介護計画の作成にあたっては、家族等の意見や希望を反映したものになる工夫を期待したい。
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個人のケース記録を毎日記録しています。職員間でも情報が共有できるように、出勤時には目を通し日々の生活に活かしています。介護計画の見直し時には記録も活かしながら見直しています。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	外出、外泊時の送迎や必要に応じて運営推進会議の参加時に送迎したこともあります。本人、家族の要望があれば出来る事は対応したいと考えています。家族が受診時に対応できない場合には職員が対応します。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	現在、職員の同行なしで単独もしくは少人数のみで外出される方もいます。地域住民の方や商店、社協や地域包括支援センター、警察、公共交通機関等にも情報提供し安全に行動できるように支援しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームとして協力医療機関を挙げていますが、これまでの生活の中でのかかりつけ医があれば継続して受診できるように対応しています。同市内の医療機関であれば受診時の対応もしています。</p>	<p>利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。市外の医療機関の付き添いは家族の対応を基本としている。受診結果については家族には電話で報告し、職員間は申し送りノートで確認している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤の看護職員はいませんが、週2～3回訪問看護ステーションより訪問して頂き、日々の健康管理や相談、助言が頂けるようにしています。また24時間常に連絡が取れる体制をとっています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された場合には医療機関、医師、相談員、リハビリ担当者等と情報交換、連絡をとっています。主に管理者が連絡調整をしますが不在の場合などは職員誰もが対応できるようにしています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居説明時にも終末期の対応についても説明し、そういった場合になった時にも安心して過ごせるように考えています。協力医療機関、訪問看護ステーション、家族等と十分に話し合い方向性を検討しています。</p>	<p>終末期の対応について、契約時に説明しているが指針等は作成されていない。重度化した場合は法人系列の他の施設に移ることが多い。</p>	<p>重度化や終末期の対応について、家族に説明し、医療関係者と連携した取り組みがあるが、家族等との信頼関係の構築や職員間で共有する意味からも、取り組みの方針を明文化することの検討を期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	急変時に冷静に判断、行動がとれるようにマニュアルの作成、研修等への参加、医師や看護職等からもアドバイスをもらっています。また、不定期になりますが訓練の検討をしています。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	火災予防、避難訓練は消防署の協力にて年2回実施しています。参加出来なかった職員には後日、訓練した職員が指導をしています。水害、津波等の避難訓練も予定しています。	年に2回の避難訓練は消防署の協力を得て実施しているが、地域住民の参加、協力は得られていない。災害時の非常用食料等の準備は出来ている。	災害時には地域住民の協力が欠かせないので、運営推進会議を通じて地域住民に呼びかけたり、災害関係の地域資源を把握するなどの取り組みを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	入居者一人ひとりの人格が違うことを常に考え、言葉がけなどは日々気をつけるようにしています。	利用者の尊厳を保ち、プライバシーを損ねることのないよう、トイレ誘導や難聴の方への声かけなど、職員間で注意し合いながら日々のケアに取り組んでいる。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	希望や要望の表出が困難な入居者では難しいところもありますが、できるだけ本人の自己決定を尊重し支援しながら生活しています。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	なるべく時間にとらわれないようにし、入居者主体のペースで過ごせるように考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理髪店や馴染みの美容院など利用できるように支援しています。また、衣服などは出来るだけ自己決定が出来るよう選んでもらっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、できる能力を発揮して準備や片付けを行っています。調理は簡単な作業が多いですが、中には魚を捌いたりできる利用者のいます。	野菜や魚の差し入れが届くことも多く、利用者と調理法や献立を話し合いながら食事づくりに取り組み、職員も利用者と同じものを食べ、利用者も和やかに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員ではないが食事の摂取量の記録をしています。利用者によっては刻み食などの工夫をしています。水分については、食事やおやつ時に全量摂取を促しています。夜間帯は給水ボトルを各自用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの状態に合わせて、一部介助にて毎食後に口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用量を減らせるよう検討しています。排泄パターンを把握し必要な方には排泄誘導を行っています。特に、日中は必要最低限のオムツ量で過ごせるようにしており、出来るだけトイレでの排泄を促しています。	排泄パターンを把握して日中は出来る限りトイレでの排泄ができるように誘導、見守りを行っている。夜間は安全性を考慮してポータブルトイレを使っている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄が自立している方は完全には把握できないが、全員排便確認を記録しています。食物繊維の多い食材を取り入れたり、日常の運動や体操（便秘予防体操）など支援しています。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせて毎日入浴できるように対応しています。出来る限り意向を聞き、入浴について本人に決定していただきます。現在では入居者のなかでおおまかな流れが出来ているようです。	利用者の希望に沿って、毎日入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には、時間を替えて再度声かけしたり、無理強いをせず次の日に入浴するなど、利用者の意向を大切にして支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間には定時に巡視を行い、必要があればその場に応じて対応しています。日中も本人の希望があれば、特に制限せず、休息できるようにしています。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容については調剤薬局等より発行される内服表を確認できるようにしています。受診時に変更があった場合にはケース記録や職員の申し送り帳なども活用し、その都度確認できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>全員ではないが、掃除、食事の準備、片付けなど日常の役割を持っている方もいます。気晴らしに外出される方もいます。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している</p>	<p>現在3人の入居者が自由に外出しています。そのために地域の方の見守り協力を依頼しています。その他外出希望があれば、出来るだけ希望に沿えるように勤務者の多い日等に対応しています。毎日ではないが、食材の買出しにも入居者と行きます。</p>	<p>利用者の希望に沿って、日常的に散歩や買物に出かけている。また、季節に応じて花見や行楽などを楽しんでいる。近隣に公園や商店があるので外出が困難な方にも散歩を兼ねた外出ができるようにしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の自己管理が難しくなっている方が多く、大半の方が事務所で管理になっています。小額を管理されている方は外出時に好きなものを買っています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>少数の入居者は電話も希望され、ホームの電話にて対応しています。手紙に関しては1人の方は自立して行っています。他の方からの要望は少ないですが、要望があれば対応します。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に応じて、職員が花を持ってきて飾ったり、折り紙細工を作成しています。また行事等の写真を飾ったりする事もあります。</p>	<p>建物は古いが掃除が行き届き快適な居住空間になっている。利用者と職員の笑顔に満ちた写真を飾ったり、季節を感じる壁飾りや生け花など、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールは狭い空間のため、完全に独りになることは少ないのが現状です。廊下のソファーに移動するか、各自居室に戻ることになります。ホールでは各自が仲の良い入居者同士が近くに座ったりされています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に説明し、自宅で使っていた家具や家電製品の持ち込みを制限せず使用してもらっています。ベッドは完備されていますが、希望があれば畳敷きの対応もします。</p>	<p>使い慣れた家具やテレビなどを置くなど、利用者がゆっくり一人でくつろげる空間づくりに配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、階段等に手すりを設置し、歩行時の安全性や見守りが出来るように努めています。車椅子での移動には限界があり、ホーム内でも杖を使用したり、シルバーカーの使用も可能です。</p>		

V アウトカム項目		ユニット名： ゆうゆうホーム	
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない